

進路実現の手助けのための教育課程編成

芳沢 文明(北海道室蘭栄高等学校)

はじめに

学習指導要領等では、教育課程の編成に関する様々な制約が盛り込まれており、学校でもこれは遵守しなければいけないものである。同時に、勤務校のような「受験校」と言われる高校では、生徒の進路実現のためには学習指導要領を超える様々な努力が、生徒にも教員にも求められる。加えて、生徒が持っている、学力をはじめとする優れた能力を、センター試験をはじめとする大学入試試験では的確に測れないこともまた現実である。

この様な現状の中、学習指導要領や北海道教育委員会独自で課している制約を逸脱することなく、教育課程を編成しなければならない。その一方で、地方の進学校では、都会では予備校が担当することが多い学習指導の範囲まで高校が担当しなければならないことも考えて、教育課程を編成する必要がある。

単位制に近い、多様な選択科目を設置することで、この問題を解決しようとしてきた勤務校の様子を紹介したい。

1 教育課程とは

(1) 教育課程との「出会い」

正直なところ私自身、学生の頃は教育課程と聞いても、何のことやらといった具合であった。もちろん、教職課程の授業の中では説明を受けていたであろうはずだが、実感を伴っていないせいか、先生方には失礼ながら、全く記憶には残っていなかった。しかも、当初の希望は中学校の教員であり、実際に中学校に赴任しても、教育課程に触れる機会はほとんど無かった。

それが、当時、北海道札幌東高等学校の校長であった阿部皎先生のアドバイスにより高校へ異動すると、いやがおうでも教育課程について勉強しなければならなくなった。ただそれでも、初めて高等学校で勤務したのが工業高校であり、普通科(地歴公民科を教える私のような、専門科目以外の教科や教員をこう呼んでいる)である私には、縁遠いものであった。

やがて現在校(全日制普通科と理数科の併置校)に勤務すると、それまでと違って教務部を担当することが多くなり、教育課程編成にも協力することとなった。さらに3年前から教務部長を仰せつかり、毎年の見直しにも気を配るようになった。

(2) 学習指導要領による制約

標準単位数と、必履修科目が定められている。標準単位数とは、その科目を、週あたり何時間ずつ学習させるかを定めたものであり、これを下回ると「未履修」とされる。必履修科目は、卒業するまでに必ず履修しなければならない科目で、これを履修しないと卒業が認められない。総合的な学習の時間も、必履修科目と同じ扱いになる。

加えて、履修させる順番も決められている科目もあり、例えば、「国語総合」の履修を終え

てからでなければ他の科目を履修させることはできない。従って、特殊な場合を除けば、全ての学校では1年次に国語総合を履修させる必要がある。一方で、同じ標準単位数でありながら、違う扱いになる科目もある。例えば、家庭の「家庭基礎」は同一学年で履修させなければいけないが、保健体育の保健は1年次と2年次に分けて履修させなければいけない。

このほかにも、理由がよくわからないものも含めて覚えきれないほど多くの制約があり、これらを満たすことが、教育課程編成の第一歩となる。

(3) 教育行政からの制約

都道府県や市町村の教育庁、教育委員会などからも独自の制約が課せられている場合がある。例えば北海道では、理数科の生徒には、「理数理科」に関する科目を3科目以上、かつ15単位以上履修させなければいけない。他に例を挙げていけば、都道府県や市町村ごとに膨大な量になるので、各学校で確認して欲しい。

学習指導要領と違って、注意すべきことがある。学習指導要領では全国の該当教員には配布されるが、こちらは全てが配布されているとは限らない。現に私の勤務校でも、数十年前に北海道教育庁から出された通達を根拠に、教育課程の変更を求められたこともある。

(4) 生徒や保護者、地域からのニーズ

私が勤務する室蘭市のような中小都市では、生徒や保護者からのニーズを全て学校が満たさなければならないことが多い。例えば、難関大学への進学希望者が集まる学校であれば、生徒は予備校に通って受験勉強することができないので、必然的に受験対応の教育課程を編成しなければならない。就職希望者が多い学校であれば、ビジネスマナーを身につける授業を中心に編成しなければいけない。

東京のような大都市圏では、学校以外のものが生徒らのニーズを満たしてくれることも多いと思う。しかし、教育課程を見直すことで、あえて「予備校いらずの受験校」を看板とした、いわゆる特徴ある学校作りを進めることも可能なのではないかと考える。

2 教育課程編成の実際

(1) コンセプトの作成と決定

ここから、私の勤務校での動きを中心にご紹介する。

最初に、この学校や自分たちに求められていることを確認する。勤務校は、旧制室蘭中学から続く伝統校で、これまで幾多の眉秀でたる卒業生を輩出している。それに続けと、大半の生徒が四年制大学、特に難関大学といわれる学校への進学をめざして集まってくる。同様に保護者も、我が子を難関大学に進学させたいと希望する方が大半を占める。さらには地域のみなさんも、「栄高校＝難関大学への進学校」という認識でいらっしやるので、柱が固まった。いや、長い間、柱は変わってこなかった。

そこで、小さな問題が発生した。勤務校は普通科と理数科の併置校で、特に理数科の扱いをどうするか、意見をまとめる必要性が生まれてきた。というのも従来の理数科は、北海道

教育庁が認めていない「特進クラス」という位置づけで、地域も含めて共通認識を持っていた。実際、理数科でありながら、明治大学や東京大学の文系学部にも、多くの卒業生が現役で合格している。ところが、平成21年度に文部科学省の「スーパーサイエンスハイスクール(以下SSH)」に指定されたため、理数科を中心に「サイエンス」に特化した教育課程を組んだ。このことから、理数科の位置づけをどうするか、職員で時間をかけて話し合った。結論としては従来通り「特進クラス」の扱いで行こう、ということになった。おそらく地域も、概ね納得してもらえるものだと思うが、反省としては地域の人に広く意見を求めても良かったのかと思う。

この様にして、勤務校は難関大学への受験に対応するカリキュラムを組むことになり、理数科においては、文系難関大学への進学にも対応できるような教育課程を編成することとなった。

(2) 必履修科目の扱い

前にも述べたとおり、必履修科目を履修させないと、生徒の卒業が認められない。そこでまず、必履修科目をどう配置するか考えた。

必履修科目は基礎的な学習内容を学ばせるものが多く、これを履修しないと他科目が履修できないという、前述の国語のような制約が課せられている場合が多い。このため、必履修科目については1年次に履修させ、それができないものは2年次に履修させるという方針が立った。それでも、理数科に限っては、倫理のみ3年次で履修させなければならなくなった。

(3) 選択は2年次以後に

現行の学習指導要領では、日本史または地理を選択し、そのどちらかを履修しなければならない。もちろん、両方を履修させることもルール上は可能だが、受験に必要な科目の履修を減らすためには、選択させなければならない。このため、日本史/地理を1年次に置くと、入試の合格発表から入学手続きまでのわずかの間に選ばなければならなくなり、正しい選択ができなくなる可能性がある。実際、将来日本文学を学びたいという希望を持っている生徒が地理を選択したり、地球物理学を学ぼうとしている生徒が日本史を選択したりして、担任との面談の中で方向性に誤りに気づくことが多々ある。したがって、1年次に教科や科目の選択を行わせると、教員のアドバイスのしようが無いために、選択ミスを起こす生徒が多発することが予想される。

なお、勤務校では芸術を1年次に履修させることにしているが、音楽と美術の学習内容を知らずに選択し、入学後に困る生徒は見かけない。これは、中学校までに音楽と美術を履修していることが理由だと考えられる。

一方、文系と理系について、勤務校では選択させていない。3年生の夏になって急に文転する生徒がいても、完全とは言えないまでも他校よりはサポートできる体制ができている。多くの学校では2年生のうちに文理選択をさせる、イコール1年次の6月までに自分の方向性と決めなければいけないことを考えると、一般的な学校と同じやり方では多くの「選択ミ

ス」を生むことになりかねない。これは、北海道の中小都市である室蘭では、中学生や高校生が自動的に得られる情報量が少ないからである。極端な例ではあるが、大学と言えば地元の室蘭工大と北大ぐらいしか知らず、北大に行く学力が無いので文系の学問は学べないと思っていた生徒も現実にはいた。そこで勤務校では、1年次から様々な情報を与え、視野を広げさせ、その上で学問のジャンルを含めた進路選択をさせている。そのためには、やはり2年次以後に全てを選択させることが必要である。

とはいえ、現行の大学入試制度に対応するためには、理系生徒には2年次のうちから理科の受験勉強をはじめさせなければならない。そこで、勤務校の理科では、2年次の前期までに必修科目を履修させ、後期に若干の選択を設けるといふ、いわば折衷案的な選択も行っている。

(4) 学校設定科目

学習指導要領には、これによらない学校設定科目の設定が、一定の条件の中で認められている。学習指導要領上の科目の内容を超えて、発展的な学習を行うためのものである。例えば勤務校の普通科では2年次に、情報の科目として「SSHジオ科学」を設定している。これは、勤務校が文部科学省のSSHに指定されたため、情報の内容を超えて学ばせるために設置した科目である。内容としては、通常の情報科の科目の内容に加え、勤務校の立地を踏まえた地学分野の内容も学ばせるものである。蛇足ではあるが、勤務校から約30km足らずのところに洞爺湖や有珠山、昭和新山があり、洞爺湖有珠山ジオパークとして火山学習の教材が、自然のままにあることによる。同じく理数科では、学校設定教科である「SSH」において、全員で有珠山に出向き、2000年噴火の火口を巡検するなどの活動が行われている。中にはこの巡検を通して火山に興味を持ち、学校設定科目の「SSH基礎」や「SSH探究」で、火山について研修する生徒もいる。

(5) 3年次では多様な選択科目

1、2年次に必修科目の大半を履修させ、3年次には受験に向けた大規模な選択科目群を置く。建前論としては、高校は大学受験のために設置されたものではないが、前述の通り、難関大学への進学を希望するものは勤務校に集まるので、彼らの進路を保証するのもまた使命である。とはいえ、文系と理系を分けていない勤務校では、受験に向けた勉強を、多様な選択科目でまかなうことになる。例えば、理系受験を希望する生徒が理科の「2科目目」を学ぶ時間には、文系生徒は地歴公民の「2科目目」を学ぶ、といった具合である。その需要を満たすためには、クラスを超えた大規模な展開授業が行われる必要がある。例えば、普通科の展開授業であれば、4クラス全てが同時に選択科目の教室に移動して授業を受けるので、展開数が7にもなる時間があり、正直なところ教員の負担も小さいものではない。

加えて、教室の確保も容易ではない。例えば普通科では、クラス単位で受ける授業は、LHRと総合的な学習の時間を除けば、国語の4単位、英語の5単位、体育の2単位の11単位だけである。他の18単位は選択授業で、理数科も16単位となる。原則的に普通科と理数科の

展開授業は別の時間に行うが、どうしても週に数時間は全6クラスでの展開となる。すると使用教室は10を超える時間もあるが、少子化によるクラス数削減で余った教室があるので、何とかやりくりしている状況である。

(6)履修放棄と自習時間

本校の教育課程の特徴としては、履修放棄が認められることがある。これは、年度途中に、それまで履修(選択)していた科目の授業を取り消して、それ以後授業に出ないようにする仕組みである。当然、それまで出席していた授業も、「なかったこと」になるが、受験を前に自習時間を増やしたいという3年生には、人気のシステムである。ただし、この履修放棄は、3年生のみに認められたルールで、1、2年次では全ての科目の履修、修得しなければならない。勤務校に転勤してきた先生の多くは、そんなシステムがあつて大丈夫なのかと心配するようだ。しかし、まず本校の生徒は、きちんと自学自習ができる生徒が集まっており、今のところ問題は発生していない。そういった意味では、地域の方々に感謝である。加えて学習指導要領では、「卒業までに74単位履修しなければならない」と決められているが、細かいことをのぞけば、それ以外にルールはない。結果として単位制のようなシステムとなっている。

3 これからの教育課程編成 ～まとめにかえて

学校教育の現場において、学習指導要領による制約や教育委員会等による制約は多々あり、教育の中立性を守るためにはこれらが必要なのも事実で、結局のところ決められたルールは守らなければいけない。しかしその中には、我々のように現場で生徒を預かって実際に指導していく者から見れば、おかしなものも少なくない。これは教育行政の構造的な問題であつて、「現場の職人」が口をはさむすきは開けられていない。裏を返せば、決められていないものは、生徒、保護者、そして地域に最大限に有利に働くように運用して良いのである。いや、そうすべきものである。乱暴な言い方をすれば、決められていないものは学校が勝手にやつて良いのである。

一時、教育行政から「民間を見習え」とのお達しが多数届いた。本社からの命令は絶対だ、ということを書いたかっただろうと想像される。しかし、数兆円もの売上げを誇るコンビニ業界でさえ、末端の店舗では1個100円のおにぎりを売っている。そのおにぎりが売れるようなオペレーションがなければ、大きな商売にはならない。これは教育業界も同じではなかろうか。立派な社会人を育てるのが我々の仕事であり、その対価として、税金から給料を頂いている。だとすれば、目の前の児童生徒が、持っている能力を最大限に発揮できる環境を作ること、我々の大きな仕事のはずだ。生徒や保護者が納得し、地域が認めてくれる学校を作るための一つの作業が、教育課程編成だと思う。

そのためには、学校の方針が先行するのではなく、教員の都合が先行するのでもない。生徒と保護者、それと地域のニーズを的確に捉え、学校の方針が作られなければいけない。そのことが、長い目を見たときに地域からの信頼になるのだと思うし、その意味でも、勤務校の先輩教員には、感謝している。

教育課程編成のシミュレーション

1 まず、必履修科目をはめる

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32			
1年																																			
2年																																			
3年																																			

必履修科目

- 国語:国語総合(4)、
- 地理歴史:世界史A(2)or世界史B(4)、日本史A(2)or日本史Bor地理A(2)or地理B(5)
- 公民:現代社会(2)or倫理(2)+政治経済(2)
- 数学:数学Ⅰ(3)
- 理科:……物理基礎(2)、化学基礎(2)、生物基礎(2)、地学基礎(2)のうちから2科目
- 保健体育:体育(7~8)、保健(2)
- 芸術:音楽Ⅰ(2)or美術Ⅰ(2)or工芸Ⅰ(2)or書道Ⅰ(2)
- 外国語:コミュニケーション英語Ⅰ(3)
- 家庭:1科目
- 情報:1科目

2 センター試験科目を考える

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32			
1年		国語総合		世界史		数学Ⅰ(A、数学Ⅱ)		化学基	生物基	体育	保	芸術	英語Ⅰ	英表Ⅰ	家庭	総	LHR																		
2年		日/地	倫理	政経	物理基	体育	保	情報																										総	LHR
3年		体育																																総	LHR

文系学部

国語(古典、漢文を含む)、地歴公民(2科目)、数学(ⅠA、ⅡB)、理科(基礎2科目)、外国語(L含む)

理系学部

国語(古典、漢文を含む)、地歴公民(1科目)、数学(ⅠA、ⅡB)、理科(基礎なし2科目)、外国語(L含む)

3 最後の微調整

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32			
1年		国語総合		世界史		数学ⅠA、数学Ⅱ		化学基	生物基	体育	保	芸術	英語Ⅰ	英表Ⅰ	家庭	総	LHR																		
2年		現代文	古典	日/地	倫理	政経		数学ⅡB	物基/古化	物基/物生	体育	保	英語Ⅱ	英表Ⅱ	情報	総	LHR																		
3年		現代文	古典	体育	英語Ⅲ	英表Ⅱ																												総	LHR

4 完成形

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32			
1年		国語総合		世界史		数学ⅠA、数学Ⅱ		化学基	生物基	体育	保	芸術	英語Ⅰ	英表Ⅰ	家庭	総	LHR																		
2年		現代文	古典	日/地	倫理	政経		数学ⅡB	物基/古化	物基/物生	体育	保	英語Ⅱ	英表Ⅱ	情報	総	LHR																		
3年		現代文	古典	体育	英語Ⅲ	英表Ⅱ			選択Ⅰ			選択Ⅱ			選択Ⅲ																			総	LHR

この様な形で、科目を割り振っていった。3年の選択Ⅰ～選択Ⅲの科目については、つぎのページの、オリエンテーション資料(実際に生徒に配ったもの)を参考にして欲しい。

《選択群の科目》

平成28年度 第2学年 教科選択オリエンテーション

平成28年6月6日(月)教科選択オリエンテーション

【普通科必修科目】

現代文B(2)	古典B(2)	コミュニケーション 英語Ⅲ(4)	英語アドバンス(2)	体育(2)
---------	--------	---------------------	------------	-------

選択Ⅰ(共通)

(普・共通選択)

地歴公民選択(3)

世界史B

日本史B

地理B

時事問題研究

・理系生徒は4科目から1つ選択

・文系生徒は時事問題研究が必須このとき倫理コース、倫政コース
政経コースから選択

(普・理選択)

物生選択(4)

物理

生物

(普・文必修)

化学探究(2)

(普・文選択)

(普文)理科選択(2)

物理探究

生物探究

選択Ⅱ

(普・理必修)

化学(4)

(普・文選択)

(普文)国英・芸選択(4)

古典A(2)

総合英語購読
SS英語(2)

音楽表現(4)

美術表現(4)

選択Ⅲ

(普・理必修)

数Ⅲ(7)

(普・文必修)

数学発展(4)

(普・文選択)

(普文)地歴選択(3)

世界史B

日本史B

地理B